

【予約募集中：4月下旬刊行予定】

フェイスブック版

古写真研究こぼれ話 三 - 真実を求めて -

高橋信一(元慶應義塾大学准教授)著

体裁：四六判・上製本・カラーカバー装・本文 324 頁・写真 200 枚予定 定価：本体 2,000 円＋税

—古写真学に未来はあるか?— 高橋信一

10年以上古写真の研究をやってきました。ブログやフェイスブックで発信し、専門誌に論文もいくつか発表し、あちこちで15回以上講演し、研究資料集『古写真研究こぼれ話』と2冊の『フェイスブック版 古写真研究こぼれ話—真実を求めて—』を出版しました。一般の方々に古写真の面白さとその歴史の資料としての重要性を知ってもらっただけでなく、歴史研究者も含めた古写真の研究者への古写真の見直し作業の協力の呼び掛けをしてきました。

その間古写真学の世界には良く言えば大先輩や専門の研究機関の研究者が述べたことを尊重し、悪く言えば追従する習慣が蔓延していて、フェアなディスカッションの場を作ろうという意識が薄いように感じてきました。「日本古写真学会」が出来ないのも数少ない研究者間の縄張り争いのためです。古写真に対して公正な議論がなされず、過去の明らかな間違いが訂正されないで、権威だけがのさばっていると思います。またその現状を固定化しようとしているのではとも思っています。「寄らしむべし、知らしむべからず」で、新しい見方をする後継者の出現を許さない現状では古写真研究者は増えず、古写真学の衰退も必然に思えて来ます。そうならないようにと思ってやってきました。私は、古写真学はとても面白いと思います。やればやるほど未知のことが明らかになります。

本書の中で一貫して『西国巡幸写真帖』の「長崎港のパノラマ写真」問題を追及しています。東京都写真美術館、長崎大学、日本カメラ博物館、長崎歴史文化博物館、横浜開港資料館、学習院大学、霞会館など関係する研究・写真の所蔵機関で別々に不完全な検討がなされているだけでした。私はこの写真が明治5年6月に内田九一によって撮影されたのではなく、明治3年後半から明治4年始めまでに上野彦馬によって撮影されたことを証明しようとしています。それによって九一と彦馬の終生変わらなかった友情の証しを示したかったのです。

古写真学の発展には学問的な手法を確立する必要があると考え、いろいろな写真家が撮影した風景写真や人物写真のベンチマークを作る作業をずっと続けています。これは、何時・誰が・何処で・何のために・何を撮影したのかという精確な情報を個々の写真に付与する作業であり、これなしにいろいろな写真に確かな説明は付けられるはずがありません。その基準になる写真を作る作業が古写真の理解を深めることに繋がります。そうすれば、同じ場所で撮影された風景写真を時系列に並べることが出来、その場所の歴史を再構成することも可能になります。人物写真についても同じことが言えます。「長崎港のパノラマ写真」でそれをやってきました。3冊を通じての同様な例は「フルベッキ写真」、「内田九一や上野彦馬の写真館スタジオの変遷」、「大隈重信」、「松本良順」、「長崎・高鉾島」、「鎌倉・大仏」や「長崎・中島川」などのシリーズです。(本文より)

【渡辺出版の既刊本(日本図書館協会選定図書)案内】

- ・フェイスブック版 古写真研究こぼれ話—真実を求めて— 高橋信一著 (本体 2,000 円＋税)
- ・フェイスブック版 古写真研究こぼれ話 二 - 真実を求めて - 高橋信一著 (本体 2,000 円＋税)

キリトリ

キリトリ

= 予約注文書 = ISBN978-4-902119-23-7 C0021 ¥2000E

『古写真研究こぼれ話 三—真実を求めて—』を()部注文します。

平成 年 月 日

ご住所：〒

TEL/FAX：

ご芳名：

書店名